

# 令和4年度 富山県国保ヘルスアップ支援事業について

## 《厚生企画課実施事業》

事業概要	課題・解決策等
<p>新（1）データヘルス推進基盤整備事業 32,400千円</p> <p>市町村において、データを活用した保健事業の更なる推進を図るため、KDBシステムの利活用、効率化を図るための補完（外付け）システムを導入する。また、県・市町村保健事業のPDCAサイクルを確実に回していくための方策の検討やデータの利活用、事業評価の充実支援を図る。</p> <p>【富山県国民健康保険団体保連合会へ委託】</p> <p>《実施状況》</p> <p>①KDB補完システムの導入に向けての準備・検討          令和4年12月 サーバー調達 令和5年1月～2月 データ投入 令和5年4月1日～システム本稼働</p> <p>②KDB補完システム カスタマイズの検討（地区設定及び高血圧管理台帳（仮称）機能について）          令和4年11月15日 市町村等向けカスタマイズ検討会（オンライン）開催 14保険者参加</p> <p>③KDB補完システム操作説明会 市町村（国保・後期・衛生）等職員を対象に3月8日開催</p>	<p>今後は、市町村が、このシステムを活用した健康課題の可視化や事業評価の充実等を図り、PDCAサイクルに沿った保健事業の自走化ができるような支援体制づくりが課題である。活用のための研修会や市町村単位では算出・作成が困難な県・市町村間比較可能なデータ提供などを行っていく。</p>
<p>継（2）保健指導対象者等抽出支援業務 1,000千円</p> <p>特定保健指導及び糖尿病重症化予防対象者の特定健診の結果等から保健指導対象者を迅速に把握するため、富山県国民健康保険連合会から市町村に対して対象者リストの配信等を行い、市町村保健師の業務の負担軽減を図る。（特定保健指導対象者・糖尿病対象者・みなし健診対象者の抽出およびリスト作成）</p> <p>【富山県国民健康保険団体保連合会へ委託】</p> <p>《リストの配信状況》</p> <p>① 特定保健指導対象者 年10回（6月～3月）</p> <p>② 糖尿病対象者 年3回（9月、1月、6月）</p> <p>③ みなし健診対象者 年1回（12月）</p>	<p>特定保健指導対象者の抽出・リスト作成は、タイムリーな特定保健指導の実施に繋げる上で活用ニーズがあること、補完システムでの代替が難しいことから今後も継続していく。</p> <p>糖尿病対象者及びみなし健診対象者は、KDB補完システム内の機能で代替可能であり、本事業としては今年度で終了とする。</p>

事業概要	事業の方向性
<p>新（３）データヘルス計画策定支援事業 4,800千円</p> <p>①東京大学の「都道府県向けリーダーシップ・プログラム」の活用  ・モデル市において、データヘルス計画標準化ツール（東京大学から共通様式として提示されているもの）を活用し、第2期計画の評価を行い、計画全体の考え方や健康課題に対応した事業計画、アウトカムを測る指標設定の考え方などの整理を行う。</p> <p>②データヘルス計画の進捗管理・策定のための共通指標の設定等の検討  ・東京大学、富山県立大学と連携し、県としての計画策定に向けた考え方・共通の評価指標等を作成し、第3期計画の標準化に繋げる。</p> <p>【東京大学委託】 【富山県立大学看護学部助言・支援のためアドバイザーとして委嘱】</p> <p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モデル市・関係者との打合せ：令和4年7月11日 24名参加</li> <li>・標準化ツールを活用した既存計画の振り返り・検討：令和4年8月～11月 2市（高岡市・魚津市）にて実施</li> <li>・モデル市へのヒアリング：令和4年12月1日 21名参加</li> <li>・市町村向け報告会の開催：令和5年2月21日 62名（15市町村参加）</li> </ul>	<p>県では、将来的な保険料水準の統一に向けた保健事業の標準化の具体的な取り組みとして、市町村保健事業の計画であるデータヘルス計画の標準化を進めることとしている。</p> <p>令和5年度は、第3期計画策定の年に当たり、国においては、県の役割としてデータヘルス計画標準化を踏まえた市町村支援が明確化される方針であるため、国の考え方及びモデル市での取り組み等を踏まえて、市町村における次期計画策定支援に繋げていく。</p>
<p>新（４）特定健診受診勧奨PFS事業可能性調査 13,250千円</p> <p>ヘルスケア分野におけるPFSの導入について、令和3年度にサンドボックス枠予算を活用し、富山県が有する健康増進・保健分野の課題において調査を行い、令和4年度に特定健診の受診勧奨におけるPFSの活用について詳細な事業条件の設定を行ったところ。県内市町村において受診率に差があるといった背景もあり、成果連動型民間委託契約方式（PFS）を活用した特定健診受診勧奨事業の令和5年度の実施に向け、事業スキームの構築、成果指標・評価方法の設定、事業実施体制の整理等を行う。</p> <p>【有限責任監査法人トーマツへ委託】</p> <p>《実施状況》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参画市町との協議：3回（令和4年7月、9月、12月）</li> <li>・PFS事業の導入可能性の検討</li> <li>前提条件・現状課題等の整理等：令和4年6月～8月</li> <li>事業者へのヒアリング・サウンディング：令和4年9月～10月 民間事業者 5社と実施</li> <li>成果指標・評価手法の設定（成果指標の上限値設定等）：令和4年8月</li> <li>支払い条件の設定（評価や支払上限値の設定等）：令和4年11月～12月</li> <li>・令和5年度契約に向けた資料作成：令和4年12月～令和5年2月</li> </ul>	<p>令和5年度以降、3か年事業として、県内4市町においてPFSを活用した特定健診の受診勧奨のモデル事業を行い、民間事業者の創意・工夫を取り入れたより効果的な特定健診受診勧奨の手法を探る。</p> <p>事業実施後も、成果のあった受診勧奨事業を市町村の既存事業の仕様に組み込むことで、引き続き効果的な特定健診受診勧奨事業に繋げていくとともに、今回参画していない市町村にも、PFSを活用して成果のあった受診勧奨事業を共有し、既存事業の仕様に組み込んでいただけるよう共有の機会を設けていく。</p>

事業概要	事業の方向性
<p>新（５）特定健診等受診率向上事業 10,000千円</p> <p>ナッジ理論を用いた受診勧奨ホームページの作成（「とやま健康ラボ」サイト内に掲載）、ホームページへ誘導する広告（WEB広告、新聞広告、シテイスケープ）、受診勧奨動画を通じた特定健診・特定保健指導の普及啓発を実施することにより、40・50代を中心とした特定健診受診率の向上や、予防・健康づくりの機運醸成を図る。</p> <p>【株式会社電通西日本へ委託】</p> <p>≪事業実施状況≫</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 令和4年10月22日 新聞広告掲載</li> <li>・ 〃 11月 1日 受診勧奨ホームページ公開</li> <li>・ 〃 11月 7日 シテイスケープ掲出</li> <li>・ 〃 12月 2日 WEB広告配信</li> <li>・ YouTube動画再生回数（令和4年11月～令和5年2月15日時点） 447回</li> <li>・ ホームページへのアクセス数（令和4年11月～令和5年2月15日時点） 51,578回（ユーザー数 37,722）</li> </ul> <p>※WEB広告配信期間のアクセス数（令和4年12月1日～12月31日） 50,400回（ユーザー数 37,340）</p>	<p>ナッジ理論を活用し、特定健診対象者向けの広告と身近な人から対象者へ声かけを促す広告の2種類を作成し、対象者向けの広告は、タイプ別（自己判断、無関心、後回し）の3種類を作成した。</p> <p>受診勧奨ホームページ及び各種広告については、WEB広告配信によりホームページのアクセス数が増加し、SNSの利用が多い若年層に対する啓発に一定の効果が期待できる。</p> <p>啓発による特定健診・特定保健指導実施率への影響については今後検証し、より効果的な普及啓発を目指していく。</p>
<p>新（６）重症化予防に向けたデータ分析事業 19,800千円</p> <p>市町村国保・後期の脳心血管疾患を発症した者について、レセプト等から、治療や服薬状況、健診データを分析し、発症要因（危険因子）を明らかにする。また、重症化予防の啓発や健診受診勧奨等の際に県民向けの妥当な根拠データを提示するとともに、市町村が重症化予防対策を進める上での介入の優先度や効果的な対象者条件等に繋げる提案を行う。</p> <p>【PREVENTへ委託】 【富山大学医学系疫学健康政策学講座監修】</p> <p>≪実施状況≫</p> <p>①分析対象：平成27年度～令和 3 年度における県内15市町村の国保及び後期のレセプト・健診データ</p> <p>②分析結果（中間報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 脳心血管疾患発症者の特徴：健診未受診者で未治療者及び健診未受診者で治療者での発症が多い。</li> <li>・ 脳血管疾患発症（生活習慣病未治療者）の要因：収縮期血圧高値が最も関連。背景として飲酒習慣、BMI高値など</li> <li>・ 脳血管疾患発症（生活習慣病治療者）の要因：尿糖・尿蛋白（2+）である対象者が最重要対象者。背景としてHbA1c高値、BMI高値など。</li> <li>・ 虚血性心疾患発症の要因：HbA1c高値、HDL低値である対象者が最重要対象者。背景要因としてBMI高値</li> </ul> <p>③市町村への分析結果を還元するため報告会の開催 ：令和5年3月15日</p>	<p>分析結果を市町村に還元することで、市町村で取組む特定保健指導や重症化予防事業において、より重点を置いて介入すべき対象者層の選定や受診勧奨・保健指導の介入の基準値の見直し等に繋げていただけるよう働きかけていく。</p>

<p>継（7）若年者の健康状況可視化事業 600千円</p> <p>県内一部市町村で、40歳未満の若年層への健診を任意で実施しているが、これまで40歳未満の健康状況等を把握したデータ等がなく、健康状態の可視化や健康課題に関する分析がなされていないため、若年者（40歳未満）の健康診断情報を地元大学に委託して分析・可視化を行い県内市町村と共有して今後の若年層に向けた保健事業の検討資料とする。</p> <p>【富山県立大学へ委託】</p> <p>≪事業実施状況≫</p> <p>①分析対象：40歳未満の健診を実施する市町村のうちデータ提供の同意が得られた8市町 705名分の健診データ</p> <p>②分析結果（中間報告）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全体で異常なしの判定は20%余りで、何らかの健康課題があり、予防の観点から健康への支援が必要な集団であった。</li> <li>・男性では肥満者の割合がどの年齢層でも30%前後であり、特に腹囲85 cm以上の割合が高く、対象者の約5割弱とメタボリックシンドロームへの潜在的または顕在するリスクが認められた。</li> <li>・市町村への分析結果を還元するため報告会の開催：令和5年3月15日</li> </ul>	<p>分析結果から、若年者へのメタボリックシンドローム対策の必要性が明らかとなり、特に国保被保険者は、雇用先での健診の機会もないため、医療費適正化の観点から分析結果を市町村へ還元し、課題を共有する。</p>
<p>継（8）専門職による保健指導等支援事業 6,200千円</p> <p>県看護協会、栄養士会、薬剤師会の専門的な人材の活用により、市町村の保健師が行う保健指導等（特定健診・特定保健指導未受診者対策、糖尿病重症化予防対策等）の保健事業に対する支援を行い、保健事業の効果的な取組みの促進や市町村専門職の資質向上と人材育成を目指す。</p> <p>【富山県看護協会・富山県栄養士会・富山県薬剤師会へ委託】</p> <p>≪実施状況≫</p> <p>①看護協会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電話による特定保健指導受講勧奨・・・3市町 看護師派遣</li> <li>・糖尿病重症化予防等の研修会講師・・・1市 糖尿病認定看護師派遣</li> <li>・糖尿病性腎症保健指導対象者に対する支援方針の助言・・・1市 糖尿病認定看護師派遣</li> </ul> <p>②栄養士会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・特定保健指導以外での健診結果有所見者への保健指導・・・1市 管理栄養士派遣</li> </ul> <p>③薬剤師会</p> <p>※ポリファーマシー対策に向けた多職種連携推進事業におけるモデル市2市を対象に実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・重複多剤服用者に対する服薬相談 3名、健康教育・出前講座 4回</li> <li>・啓発用ポスターの作成（医療機関、薬局に配布）</li> </ul>	<p>市町村における保健指導は、特定保健指導以外にも糖尿病性腎症や循環器疾患、重複・多剤服薬者等への保健指導等、専門性の高い保健指導まで多岐にわたるため、より効率的・効果的な保健指導の実施ができるよう専門職関係団体と連携した仕組みづくりを継続していく。</p>

事業概要	事業の方向性
<p>継（９）保健事業に係る人材育成支援事業 7,100千円</p> <p>市町村職員や県内の専門職（医師、薬剤師等）の資質向上のため、研修会等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市町村の保健指導に関わる人材の育成（ロールプレイ等）</li> <li>・データを活用した保健事業に関する研修会</li> <li>・受診率向上のためのナッジ理論活用に向けた研修会、個別相談会</li> <li>・医師、薬剤師等に対するポリファーマシー対策研修会</li> </ul> <p>【株式会社ウェルクル・合同会社ヘルスサポートラボ・キャンサースキャンへ委託】</p> <p>≪実施状況≫</p> <p>①市町村の保健指導に関わる人材の育成（保健指導教材の提供・研修会等）</p> <p>第1回：令和4年9月12日 オンライン 参加者：市町村保健師・管理栄養士・国保事務職等54名（14市町村） 内容：特定保健指導対象者の健診結果等事例の読み取りについて</p> <p>第2回：令和4年11月24日 集合 参加者：市町村保健師・管理栄養士 22名（10市町村） 内容：特定保健指導のロールプレイ等</p> <p>②データを活用した保健事業に関する研修会</p> <p>令和4年8月30日 オンライン 参加者：市町村保健師・管理栄養士・国保事務職等73名（15市町村） 内容：健診・医療・介護データの市町村における保健事業への利活用について</p> <p>③受診率向上のためのナッジ理論活用に向けた研修会、個別相談会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修会：令和4年6月14日 オンライン 参加者：市町村保健師・管理栄養士・国保事務職等47名（11市町村） 内容：県内市町村の取組みの紹介及び受診率向上に向けた取組みのポイント</li> <li>・個別相談会：令和4年6月～12月 6市町参加 相談内容：特定健診・特定保健指導勧奨資材等の効果的な周知について</li> </ul> <p>④ポリファーマシー対策研修会</p> <p>令和5年2月9日開催 オンライン 参加者：市町村専門職・国保事務職、薬剤師、介護支援専門員、訪問看護師等14名（14市町村参加） 内容：地域におけるポリファーマシー対策の取組み等</p>	<p>①市町村の保健指導に関わる人材の育成</p> <p>本県は、メタボ該当者割合が高いことから特定保健指導の質の向上は重要な課題であり、教材の提供や受講者のレベルに応じた段階的な特定保健指導スキルアップのための研修の機会を企画していく。</p> <p>②データを活用した保健事業に関する研修会</p> <p>健診・医療・介護等のデータに基づく保健事業のPDCAを回していくために、データの利活用に関する研修会の機会は必要であり、継続的に実施していく。</p> <p>③受診率向上のためのナッジ理論活用に向けた研修会、個別相談会</p> <p>受診率向上に向けて他自治体の資材や具体的なアプローチ方法等を共有する場を設けていくこと、併せて、ナッジ理論や受診率向上の方法論から、更に踏み込んだノウハウを市町村に提供できるようニーズに応じた事業展開を継続していく。</p> <p>④医師、薬剤師等に対するポリファーマシー対策研修会</p> <p>医療費適正化や適正服薬の観点からは、ハイリスクも重要であるが、国保においては、ポリファーマシーに関する普及啓発の充実が必要であるため、薬剤師会と連携した出前講座等ポピュレーションの取組みについて、市町村へ働きかけていく。</p>
<p><b>他、健康課実施事業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国保向けの食生活改善のための普及啓発事業 8,080千円</li> <li>・「知って、糖尿病！STOP合併症」普及啓発事業 800千円</li> <li>・かかりつけ医への心不全対応力向上研修 600千円</li> </ul>	

※事業費は、全て当初予算額で記載